

■児童・生徒の学力の状況

○学習に真面目に取り組む児童が多いが、基礎的・基本的な内容の定着に個人差がある。そのため、
○本年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語科、算数科ともに知識・技能の平均正答率が都の平均より10%ほど低い。基礎、基本的な内容の学習の習熟を図る時間や既習事項の復習をモジュール学習や少人数指導に取り入れ、知識・技能の習得を推進していく必要がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○今年度の校内研究は「個別最適な学び・協働的な学習」をテーマに取り組んでいるが、基礎的・基本的な学習内容を習熟させる時間の確保が課題である。
○自分の考えを図や表、文章などで表現することに苦手意識をもっている児童が多い。
○一人一台端末を活用した授業を展開しているが、ICTスキル（タイピング等）に個人差があるため、技能向上の時間を確保することに課題がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○板橋区授業スタンダードを徹底し、児童に基礎的・基本的な学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
○板橋区授業スタンダードSの推進に取り組み、教師が児童の実態に合わせて学習形態を選択し、児童が自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自己選択して学ぶ場面を設定することで、「個別最適な学びと協働的な学び」を追求していく。
○「読み解く力」を高め、一読して書かれている内容を正確に理解し、正しく回答できるようにしていく。
○総合的な学習の時間の充実に努め、各教科等の学びをつなげられるようにする。
○すべての授業で、自分の考えを文章で表現（書くこと）する活動を取り入れ、その考えを交流（話すこと・聞くこと）する活動を行っていく。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○「質の高いめあての提示」→「自力解決」→「対話的な学び」→「振り返り」という学習の流れを定着させる。 ○「振り返り」は各自にとってのポートフォリオとなるようにしていく。	○AIドリルやデジタル教材を用いて、自分のペースでの学びを進めていく。 ○一人一台端末を用いて、さまざまな考えに触れさせることで協働的な学びに繋げていく。	○各教科での学びが、総合的な学習の時間に繋がられるように単元指導計画をもとに設定していく。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○スタートカリキュラムに基づいた授業を行い、小一ギャップや小一プロブレムが起こらないようにしていく。また、小一サポーターを活用し、複数人での指導体制を確立していく。 ○学びのエリア内での学習規律や生活指導での違いをなくすために情報交換をして今までのルールを見直してリデザインしていく。	○令和6年度人権尊重教育推進校であった取り組みを継続し、福祉課題・人権課題との出会いから自分たちにできることを考えて取り組んでいく。 ○いじめアンケートの年3回の実施やSCとの面談を行い、児童が相談しやすい学校環境を作っている。 ○月に1度、『板八タイム』に取り組み、異年齢集団での交流を行っている。 ○富士見地域センターの体育館を使用し、児童の運動機会を保障している。	○教室以外の居場所作り、支援体制の構築を図る。 ○特別支援教室拠点校、日本語教室拠点校の強みを生かし、情報交換を密に行い、児童一人一人に合った指導を複数人体制で取り組んでいく。 ○スクールソーシャルワーカーと連携体制を構築し、必要な支援を行っている。